

高校生活の中で最大の行事である修学旅行がいよいよ迫ってきました。修学旅行の正確な起源は定かではありませんが、明治時代にその起源があるとされています。修学旅行はその名が示すように、学問を修め見聞を広めることが大きな目的とされてきました。恐らく、経済的な問題で個人・家族旅行が一般的でなかったことの代償としての意味合いもあったかと推測されます。生活が豊かになり旅行が大衆化した現在、修学旅行の存在意義を問う声もあります。そんな中で敢えて修学旅行を実施する意味をしっかりと考えてみてください。

修学旅行は個人・家族旅行と違い、学校の教育目標や指導方針に基づいて計画実施される社会体験であり実習であります。家庭や学校という日常の生活空間を離れることで、「未知の様々な体験を通して視野を広めるとともに、主体的に生きる力を養う」ことを目的としています。オーストラリアを研修地とする本校の修学旅行では、異文化理解・国際交流を深めグローバルな視点で将来の自分を考えること、本物に触れることによる感動から知性と感性を育むこと、そして生きた英語に触れることによりコミュニケーション能力・人間力を磨くことを目標として掲げています。

人から話を聞くよりも自分の目で実際に見たほうが確かであるという意味の「百聞は一見に如かず」という諺があります。今回の修学旅行を通して、オーストラリアの自然や文化、歴史や伝統、生活習慣や日常会話などを自分の目で確かめ直接体験することにより、これまで教科で学習してきたことと関連づけて、理解を深めてほしいと思います。特に生きた英語に触れる絶好に機会です。これまで学んできた英語を活用することで、皆さんの英語力が今以上に向上することを期待します。

最後になりましたが、今回の修学旅行に快く送り出していただいた家族の方々、計画や準備に当たっていただいた旅行会社の方々、引率及び指導して下さる先生方に、感謝の気持ちを忘れないで欲しいと思います。皆さんの自覚と節度ある行動によって、修学旅行が初期の目標を達成するとともに、人間力をさらに高める機会となることを期待して、巻頭の挨拶といたします。